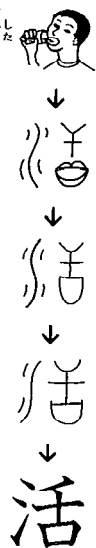


活

二年
画数 9
筆順
オン
カツ

成り立ち



「舌」と「水」を組み合わせて作った字で、「生き生きと元気づく」ことをあらわした字です。舌がかわくと口がはたらきにくくなり、たべものはのどを通らず、こしばもいえなくなりますが、水をのめばたちまち元気になり、「生き生きと」してきます。だから、「舌」と「水」とで「生き生きと元気づく」ことをあらわしたものです。

「舌」は、みをまもるぶき「ほこ」の形をあらわした「干」と「口」とを組み合わせて作った字です。口は舌があつてはじめて食べものも食べられ、こしばをいうことができます。舌は口をまもりたいせつなぶきである、というみで、「干」と「口」とであらわしました。

使い方

- ▽食べ物や飲み物は、活力のみなもとです。なるべく好き嫌いを言わず食べると、元気でじょうぶになります。
- ▽昼休みの学校は、活気にみちています。校庭で遊ぶ子もいれば、教室でにぎやかにおしゃべりしている子もいます。
- ▽朝市は、活気があつて、良いものです。
- ▽ふくろうは、夜、活動します。
- ▽いなかと都会では、生活のようすが、ずいぶんちがいます。

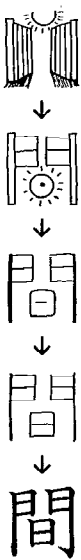
熟語例

- ▽活力(生き生きと元気に動く力。エネルギーのことです。「活力にあふれた子ども」などというふうにつかいます。)
- ▽活気(生き生きとした気分。生き生きとした元気)
- ▽活動(生き生きと元気づくこと。)
- ▽生活(生きて活動すること。また、「世の中で、くらししていくこと」をいいます。)

間

二年
画数 12
筆順
オン
カン・ケン
あいだ・ま

成り立ち



「門」のあいだから、「日」のひかりがさしこんでいることをあらわした字で、「あいだ」といういみをあらわしたものです。

「あいだ」「へだたり」「すきま」「ま」などのいみにつかいます。

また、「すきま」をうかがう」といういみにもつかわれることもあります。

「古い字は「間」であった。暗い夜、門の隙間から月の光がさし込む」と考えた方が自然だからである。

カンは漢音、ケンは呉音。「人間」は普通、呉音でニンゲンと読むが、漢音でジンカンと読むこともある。」

使い方

- ▽まどと、まどわくの間に、すき間があつて、そこからつめたいかぜが、ヒューヒューとふきこんできました。
- ▽おとうさんと、おかあさんの間に生まれたのが、おねえさんとぼくです。おねえさんとぼくの間は、三歳はなれています。

熟語例

- ▽間隔(あいだ。へだたり。ものともとのひらきや、時間のへだたりのことをいいます。「十分間隔で、バスが出る」などといいます。)
- ▽間接(直接でなく、間になにかをはさんでいること。「間接的に聞いたのだから、ほんとうではないかもしれない」などといいます。)
- ▽世間(世の間。世の中。社会。「世間体がわるい」などといいます。)
- ▽間隙(すきま。すき。「間隙をぬってとっしんするのが、ラグビーのおもしろさだ」などといいます。)
- ▽間者(すきをうかがって、敵のようすをさぐる者。スパイ)